

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		放課後デイサービス アロ此花				公表日	2025年 4月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		活動内容や児童の人数、特性に応じて机や椅子の配置を調整し、支援室のスペースを有効に活用しています。集中しやすく、安心して過ごせる環境を整えるよう日々工夫しています。	国の指定基準を満たしたスペースの確保をし、スペースとして提供させていただいております。 10名定員に対し69m ² の指導訓練室として十分に余裕のある広さを保っております。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		児童の特性や活動内容に応じて、支援の必要な場面に職員が柔軟に対応できるよう、日々の情報共有と役割分担を工夫しています。	国の定める基準に則り、児童10人に対して指導員2名以上を配置し、安心して過ごせるよう配慮された支援体制を整えています。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		活動内容に応じてスペースを分かりやすく区分し、児童が安心して過ごせるよう環境を整備しています。段差のない動線にするなど、安全面にも配慮しています。	活動内容や人数によっては一部のスペースが手狭に感じられることがあり、今後は動線の見直しや備品配置の工夫など、環境整備のさらなる工夫が求められます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日々の清掃や整理整頓を徹底し、常に清潔な環境を保っています。児童の活動内容に応じて机や椅子の配置を工夫し、快適に過ごせる空間づくりを行っています。	活動が活発になる時間帯には空間をより有効に活用できるよう、今後も工夫を重ねて快適な環境づくりに努めています。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		児童の気持ちや状況に応じて静かなスペースで過ごせるよう配慮し、安心できる環境を整えています。	個別に過ごせるスペースの確保には限りがあるため、児童の状況に応じた柔軟な対応と環境の工夫が今後の課題です。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		日頃の支援を振り返り、改善につながるよう話し合いの場を設けています。	毎朝のミーティングを通じて目標や課題を共有し、職員全員が意見を出し合いながら業務改善に取り組む体制を整えています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		定期的に実施し、保護者様の意向を職員が把握するようにしております。	随時、保護者様へアンケートを実施してご両親等の意向を把握するように努め、日々の支援内容や児童様の成長、保護者の方との連絡の取り方等での改善を図っております。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員同士で意見交換を行う時間を設け、日々の気づきを共有することで、業務改善や支援の質向上に役立てています。	日々の意見共有は行えており、今後はより多くの職員が積極的に意見を出しやすい環境づくりを意識していきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		これまで第三による外部評価の実績はありませんが、今後は定期的な第三者外部評価による評価結果を基に、業務改善に繋げ、より良い支援を目指します。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		職員間でのミーティングや事例検討を通じて学び合う機会を設け、日々の支援に活かせるような知識や視点の共有に努めています。	日々の業務に追われる中で、研修の時間確保が難しい場面もあるため、今後は業務とのバランスを考慮した研修機会の充実が課題です。	
支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		児童一人ひとりの発達段階や興味関心を踏まえて支援プログラムを作成し、保護者への説明や掲示を通じてわかりやすく公表するよう努めています。	支援プログラムは作成・公表しているものの、保護者への伝え方や内容のわかりやすさについて、さらなる工夫や改善の余地があると感じています。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		定期的な面談や日々の関わりを通じて児童や保護者の思いを丁寧に汲み取り、アセスメントに反映させた上で、個別に応じた支援計画を作成しています。	利用児童のお送り時や電話連絡にて保護者様の意向と当事業所での支援内容を確認し、計画期間ごとにモニタリング、アセスメントを行った上で、放課後等デイサービス計画を作成しております。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援計画の作成にあたっては、児発管だけでなく関わる職員全員で話し合い、児童の特性やニーズを共有しながら、最善の支援内容を検討しています。	職員間での情報共有は行われているものの、今後はより深い意見交換を通じて共通理解を深め、計画作成に活かす体制づくりが求められます。	

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス アロ此花				公表日	2025年 4月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		作成した放課後等デイサービス計画は定期的にミーティングで共有し、全職員が内容を把握した上で支援にあたれるよう情報の共有体制を整えています。	支援計画の共有は行っているものの、全職員が常に内容を把握し実践に活かせるよう、より分かりやすい共有方法や確認の機会を増やす必要があります。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		日々の活動を通じて児童の様子を丁寧に観察し、記録や職員間の情報共有を重ねながら、個々の特性や変化を把握するよう努めています。	日々の観察を重視している一方で、標準化されたアセスメントツールの活用が十分とは言えず、今後の導入や活用方法の検討が課題となっています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインの「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・連携」の視点を踏まえ、児童の状況に応じた目標を設定し、個別性のある具体的な支援内容を丁寧に計画へ反映しています。	本人支援を中心に計画を作成するが多く、家族支援や地域連携、移行支援の視点をより意識した支援内容の充実や記載方法の工夫が今後の課題です。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		職員全員で話し合い、子ども達が楽しく様々な体験ができるように活動プログラムを作成しています。	支援員・指導員・指導発達支援管理責任者が意見を出し合い、プログラムの立案を行っています。支援内容の目的や児童の様子に合わせて、指導員の役割やサポートの仕方を話し合えるよう努めています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節行事等を取り入れながら、プログラムが固定化しないよう工夫しております。	2ヵ月前に活動プログラムを計画し、ご利用者様へ毎月の活動予定プログラムを配布させて頂いております。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童の特性やその日の体調・気分に応じて、個別活動と集団活動を柔軟に組み合わせ、無理なく参加できるよう計画・支援を行っています。	集団活動の中で個別に配慮が必要な場面もあり、児童の特性に応じた柔軟な対応や活動の工夫をさらに充実させていくことが今後の課題です。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		役割分担の打ち合わせを実施し、その都度確認するようにしています。	その日行われる支援内容や役割分担について、それぞれが支援開始前に確認を行っていますが、不十分であるようなので今後も全職員で打ち合わせを行ない、確認を行っていきます。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援で上手くいった点や工夫が必要な点等を職員間で意見を出し合い、次回の支援につなげています。	支援終了後にそれぞれ職員間で、支援の振り返りを行うと共に気づいた点を話し合っています。今後も、全職員で、その日の支援の振り返りと共に気づいた点を話し合い、より良い支援へと繋げていきます。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		連絡帳において、児童に関する日々気づいた点を記録し、情報共有に取り組んでおります。	日々ケース記録を作成し、支援の検証・改善に繋げて、より良い支援を目指します。支援内容のねらいや成果を記録することにより、児童の成長点を把握できるよう試みています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングを通じて児童の成長や変化を確認し、必要に応じて支援計画の見直しを行い、常に適切な支援が提供できるよう努めています。	モニタリングは定期的に実施しているが、支援計画への反映に時間を作る場合もあるため、より円滑に見直しを進められる体制づくりが課題です。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5		①日常生活の充実と自立支援のための活動、②多様な遊びや体験活動、③地域交流の活動、④子どもが主体的に参画できる活動をバランスよく組み合わせ、児童の特性や発達段階に応じた支援が行えるよう日々工夫しながらプログラムを構成しています。	日々の支援に4つの基本活動を取り入れているが、活動のねらいや効果を職員間でより明確に共有し、支援計画への反映を強化することが今後の課題です。	

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		放課後デイサービス アロ此花				公表日	2025年 4月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関係機関や保護者との連携	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		活動前に複数の選択肢を提示し、子ども自身がやりたいことを選べるよう配慮しています。自己決定の機会を大切にし、自信や主体性を育てる支援を行っています。	自己選択の機会は設けており、今後はより多くの児童が安心して選べるよう、気持ちに寄り添った声かけや環境づくりをさらに充実させていきます。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		サービス担当者会議や関係機関との会議には、日頃から児童と関わっている職員が参加し、具体的な支援内容や様子を共有できるよう工夫しています。	担当職員が会議に参加するよう努めているが、日程調整が難しい場合もあるため、児童の状況が正確に伝わるよう情報共有の工夫が今後の課題です。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		関係機関との連携を大切にし、必要に応じて情報交換や相談を行うことで、子ども一人ひとりに適した支援が行える体制づくりに努めています。	関係機関との連携は行っているものの、情報共有のタイミングや手段に課題があり、より円滑に連携できる体制づくりが今後の改善点です。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校との連携を大切にし、年間行事や下校時刻の確認、トラブル時の連絡も丁寧に行うことで、子どもの安心・安全な支援に努めています。	各学校への迎えの際に、適宜情報共有し、連絡調整を行っています。また、保護者様から学校の行事予定を随時情報提供していただき、できる限り運動会や文化祭等には当事業所の指導員も参加しております。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	比較的高学年の児童が多く、学校行事や下校時間の変更が多岐にわたるため、確実な情報把握と共有方法の見直しによる対応力の向上が今後の課題です。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		卒業後のスムーズな移行を支援するため、これまでの関わりや支援内容を記録に基づいて整理し、関係機関へ必要な情報を丁寧に引き継ぐよう努めています。	移行支援は行っているものの、関係機関との連携や情報提供のタイミングに課題があり、より計画的で丁寧な引き継ぎ体制の強化が今後の課題です。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		児童発達支援センターと定期的に連携を取り、支援に関する相談や助言を受けることで、職員の支援力向上につなげる工夫をしています。	これまで必要に応じて連携は行ってきましたが、今後はさらに積極的に研修や助言の機会を設け、支援の質向上を図っていきたいと考えています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		年に1回、此花区内の放課後等デイサービスが合同で運動会を開催し、児童発達支援センターとも連携を図るなど、地域交流や情報共有の機会を大切にしています。	年に1回、此花区内の放課後等デイサービスが集まる運動会を通じて交流はあるものの、児童発達支援センターとの具体的な連携や助言の機会が少なく、今後の課題です。	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	5		月に1回開催される「こども部会」に参加し、此花区内の放課後等デイの職員と情報交換や意見共有を行い、地域連携と自立支援の質向上に努めています。	月に1回の「こども部会」には継続して参加しているが、他の協議の場への参加は少ないため、今後は多様な場での学びや連携の機会を広げていきたいと考えています。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や連絡帳を通じて日々の様子を丁寧に伝え合い、保護者との情報共有を大切にすることで、子どもの発達や課題への共通理解を深めています。	日々のやりとりは行っているものの、短時間の会話では伝えきれない面もあり、今後は面談や個別相談の機会を増やす工夫が必要と考えています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特レーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		日々のやりとりの中で家庭での様子を丁寧に聞き取り、保護者の困りごとに応じた助言や情報提供を行うことで、家族支援の充実に努めています。	日々のやりとりを通じた情報提供は行っているが、体系的な家族支援プログラムや研修の実施には至っておらず、今後の取り組み課題と認識しています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に運営規程や支援プログラム、利用者負担について資料を用いて丁寧に説明し、保護者が安心して利用開始できるよう心がけています。	初回説明は実施しているが、制度や支援内容が複雑なため十分に伝わりにくいくもあり、今後は視覚的資料の活用など工夫を検討ていきたい。	

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		放課後デイサービス アロ此花				公表日	2025年 4月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		支援計画作成時には、定期的な面談や日々のやりとりを通じて、こどもや保護者の思いや希望を丁寧に確認し、最善の利益を考慮した計画づくりに努めています。	日々の関わりの中で意向の把握は行っているものの、計画作成時により丁寧な聞き取りを行い、こどもや保護者の思いを的確に反映させる工夫が今後の課題です。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		支援計画を作成する際には内容をわかりやすく説明し、保護者が納得した上で同意を得るよう努めています。疑問や不安にも丁寧に対応し、信頼関係の構築を大切にしています。	支援計画の説明と同意取得は行っているが、専門用語が多く理解が難しい場面もあるため、より伝わりやすい表現や資料の工夫が今後の改善点です。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		日々の送迎時や連絡帳を活用し、保護者の悩みに丁寧に耳を傾け、必要に応じて面談を行なながら、安心して子育てできるよう助言や支援を行っています。	日々の相談には応じているものの、時間が限られることもあり、より落ち着いて話せる環境や面談機会の充実を図ることが今後の課題です。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4	現状は保護者同士の交流の機会は設けられていませんが、送迎時のちょっとした会話を通じてつながりが持てるよう配慮し、今後の機会づくりも検討しています。	現状では保護者同士の交流の機会を設けることができておらず、今後は保護者会や行事などを通じて、自然な交流が生まれる場づくりが課題と考えています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情対応については担当者を明確にし、契約時に体制を丁寧に説明しています。今後はよりわかりやすく周知し、迅速かつ丁寧な対応を心がけていきます。	苦情対応の体制や担当者については説明を行っており、今後は保護者やこどもがさらに安心して相談できるよう、周知方法や環境づくりの工夫を進めていきます。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		定期的な案内や毎月の行事カレンダーを通じて、活動内容や予定を保護者にわかりやすく伝えています。連絡体制についても丁寧にお知らせするよう努めています。	現在は行事予定や活動内容を定期的に案内する体制が十分ではなく、今後は保護者に分かりやすく伝えるための情報発信手段の充実が課題です。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報は鍵付きの保管場所で管理し、関係職員以外が閲覧できないよう徹底しています。また、職員にも取り扱いの注意点を周知し、適切な管理に努めています。	個人情報の管理は行っているが、保管方法や職員への周知について改めて見直しを図り、より一層適切な取り扱いを徹底することが今後の課題です。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		こどもの理解度や表現方法に応じて、ゆっくり丁寧に声かけを行い、表情やしぐさにも注意を払うことで、安心してやり取りできるよう配慮しています。	日々のやりとりには配慮しているが、児童ごとの理解の違いや保護者の多様なニーズに応じた伝え方の工夫をさらに深めていくことが今後の課題です。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	現時点では地域住民との交流機会は少ないものの、今後は行事や活動を通じて地域とのつながりを広げ、地域に開かれた運営を目指していきたいと考えています。	地域住民を招いた行事の実施や交流の機会がなく、地域に開かれた運営が十分に行えていないため、今後は地域との関わりを意識した取り組みが課題です。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを整備し、職員全体で内容を共有しています。定期的に避難訓練や感染症対策研修を実施し、緊急時にも落ち着いて対応できる体制づくりに努めています。	マニュアルの整備と訓練は実施しているが、職員間での理解に差が見られるため、定期的な振り返りや共有の場を設けることが今後の課題です。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）を策定し、自然災害や感染症の発生に備えて定期的に避難訓練や感染症対応訓練を実施しています。職員全体で情報を共有し、緊急時に迅速かつ安全に対応できる体制づくりに努めています。	BCPに沿った訓練は行っており、今後は災害ごとの対応手順や職員の役割分担をさらに明確にし、実効性の高い訓練内容へと充実させていくことが課題です。	

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		放課後デイサービス アロ此花				公表日	2025年 4月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		利用開始時に健康状態や服薬、てんかん発作の有無などを保護者から詳しく聞き取り、必要に応じて情報を職員間で共有し、安全な支援体制を整えています。	健康情報の聞き取りは行っているが、変化があった際の迅速な情報更新や職員間での共有体制をさらに強化していくことが今後の課題です。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		食物アレルギーのある児童については、保護者からの聞き取りと医師の指示内容を基に対応方針を確認し、職員全体で情報を共有して適切に対応しています。	現在は保護者からの聞き取りを中心に対応しており、今後は医師の指示書の確実な取得や、職員への具体的な対応方法の周知を徹底することが課題です。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全な支援の提供に向けて、日々の見守り体制を整え、ヒヤリハットの共有や定期的な研修・訓練を通じて、職員の安全意識の向上と対応力の強化に努めています。	安全に関する意識は共有できているが、状況に応じた具体的な行動の確認や、安全計画の見直しを定期的に行う仕組みづくりが今後の課題です。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全確保の取り組みについては、契約時や面談時に保護者へ説明を行い、日々の送迎時にも情報共有を行うことで、家庭との連携と理解を深めるよう努めています。	安全に関する取組は実施しているが、保護者への周知が口頭での伝達に偏りがちであり、今後は文書や掲示など多様な方法での情報提供が課題です。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット事例が発生した際には、速やかに職員間で共有し、振り返りと話し合いを行うことで、再発防止に向けた具体的な対策を検討するよう努めています。	ヒヤリハットの共有は行っているが、職員全体での振り返りや具体的な再発防止策の実践に結びつける体制づくりが、今後の課題と考えています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止に関する意識を高めるため、定期的に職員間での話し合いや事例共有を行い、子どもとの関わり方や声かけについての理解を深める取り組みを実施しています。	日々の業務の中で虐待防止の意識づけは行っているが、定期的な外部研修や体系的な学びの機会が不足しており、職員全体での理解を深める取組が今後の課題です。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束は行っておらず、万が一に備えて対応方針を職員間で共有しています。保護者にも丁寧に説明し、安心して利用いただける支援体制の構築に努めています。	身体拘束は行っていないが、今後も万が一に備えて対応方針を明確にし、保護者への説明や職員間での共通理解をさらに深めておくことが課題と考えています。	